

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話(06)6932-5443代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話(076)444-6836

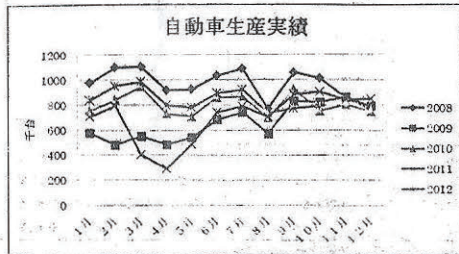
購読料 半力年44,100円(前納)3ヵ月22,050円

日刊メタルレポート

	8月	9月	10月
生産台数	73万5999台	77万3990台	79万2166台
前月比	-20.2%	+5.2%	+2.3%
昨年対比	+4.5%	-12.4%	-12.4%

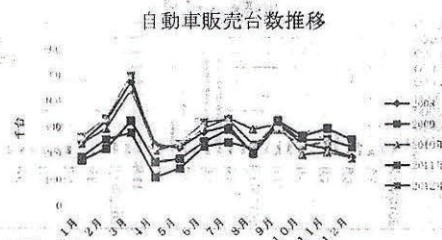
	9月	10月	11月
販売台数	28万8478台	22万5543台	24万3974台
前月比	+21.1%	-21.8%	+8.2%
昨年対比	8.1%	-9%	-3.4%

自動車生産台数



出典 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



出典 日本自動車販売協会連合会

自動車関連はなお冴えず
新設住宅着工戸数二ケタ増

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート①

【概況】十一月前半は十一月の米消費者態度が〇七年七月以来の高水準になるなど好材料もあったが、オバマ大統領再選により大型減税終了と債務収縮期限が同時に来る「財政の崖」問題における上院での民主、共和のねじれを嫌気し、LME銅相場は暴落、七、六三三ドル(セツル)と約一八〇ドル下落しての前半締めとなった。

後半は欧州が七、九九月期に過去四年で二度目となるリセッション入りしていた事が判明するも、IMF(国際通貨基金)と欧銀の間でギリシャ支援再開について合意されたことや、独IFO企業景況感指数が予想外に良かったこと、さらに中国HSBCのPMI指数が五〇・四と一年一ヵ月ぶりに景気判断となる五〇を上回った事、当局が四九〇億円の鉄道事業を承認したことを好感し、LME銅相場は急騰、十二月三日現在、前半締めから三四ドル上昇の七、九四九ドル、銅建値七〇万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、十月の自動車生産台数は前月比・二・三%増の七九万二、一六六台であった(前年比・一・四%減)。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、十一月の自動車販売台数(軽除く)は前月比八・二%増の二四万、九七四台(前年比・一・三%減)。(二面へ続く)

東北商店株式会社
www.tohokushoten.com被覆線・雑品
非鉄金属買収

貿易業

東北商店株式会社
□本社
大阪市住之江区新北島5-3-16
TEL:06-6683-8828
□南港事業所
TEL:06-6613-8838
□葉支店
TEL:0436-76-7277

グループ会社

□東北エント株式会社
兵庫県姫路市網干区浜田1585
TEL:079-271-5025
www.tohoku-ent.com
□東北ライド株式会社
愛知県海部郡蟹江町大字蟹江新田
字大海用172番
TEL:0567-94-5688

銅輸出は電気銅が二六・一％減

輸入は電気銅、スクラップとも増

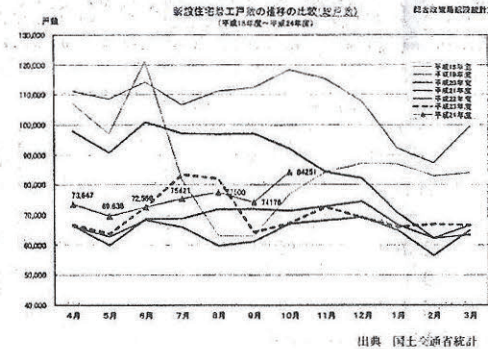
(一面より続く)

【前月の経済指標】

◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)一二・九％増(昨年比二五・二％増)の八万四、二五・戸であった。

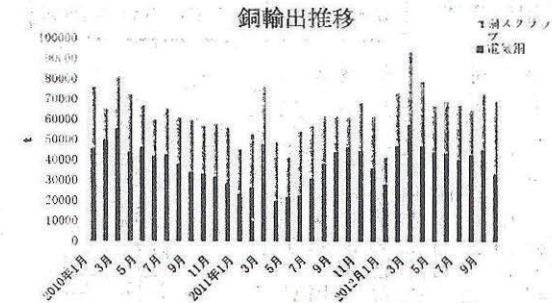
	8月	9月	10月
新設住宅着工戸数	7万7500戸	7万4178戸	8万4251戸
季節調整 前月比	+2.1%	-2.5%	+12.9%
昨年対比	-5.5%	+15.5%	+26.2%
新設住宅着工件数推移			



◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が二六・一％減、三万三、三〇九t、スクラップが二八・九％増の三万五、八七t。

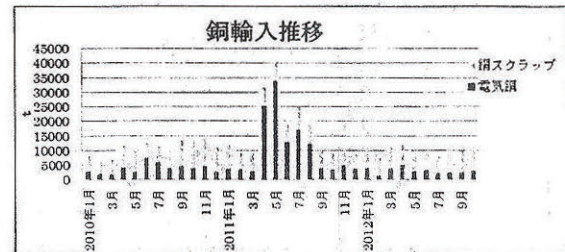
	8月	9月	10月
輸出			
電気銅	4万2724t	4万5075t	3万3309t
前月比	+6.9%	+5.5%	-26.1%
スクラップ	2万2322t	2万7832t	3万5872t
前月比	-18%	+24.7%	+28.9%
輸出推移			



	8月	9月	10月
輸入			
電気銅	2453t	2350t	3097t
前月比	+16.5%	-4%	+31.5%
スクラップ	6764t	7436t(※)	8146t
前月比	+15.6%	+9.9%	+9.5%

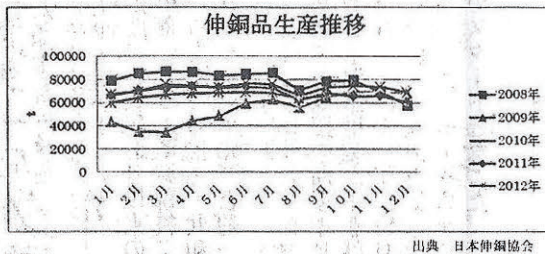
※9月スクラップ輸入数値は改定値(財務省)

輸入推移



【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比三・四％増の六万五、八三〇t(昨年対比〇・五％増)。



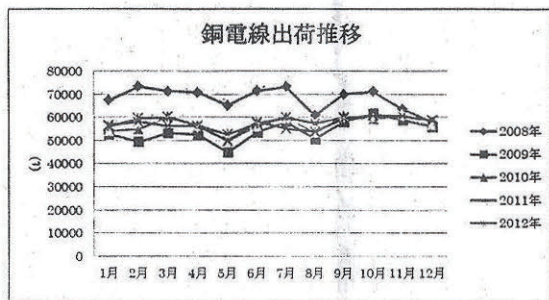
日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比四％増の六万tであった(昨年対比〇・八％減)。(六面に続く)

銅相場 上値は八千三百ドルで限界か

欧州問 中国景気に不確定要因多い

国内需要もまだ総じて冴えず

(二面より続く)



出典 日本電線工業会

【見通し】

十一月の自動車生産はさらに二桁悪化、販売の方も三・三%減とまだまだ減少基調(前年比)にある反面、住宅関連は先月の悪化から一転、前月比(季節調整済み)一・二・九%増の八万四、二五二戸(昨年比では三五・二%増)と、復興需要も伴って大幅増。

欧州債務問題については、IMF国債通貨基金と欧州銀行がギリシャ救済に関して大幅譲歩、無事合意に至ったことから、懸念は一且後退した。ただし、ゼネストなどの不確定要因が多く予断は禁物であろう。

自動車生産は前年比一二・四%減の七九万二、一六六台と前月に続き前年割れであり、まだまだ下げ止まる気配はなし。

また国内自動車販売台数が二四万三、九七四台で、こちらも前年比三・三%減と悪化している。

自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比三・四%増の六万五、八三〇t、昨年対比〇・五%増と一七カ月ぶりに下げ止まり。住宅市場の持ち直しも一因か。

銅電線出荷量は、前月比四%増の六万〇、〇〇〇t、昨年対比〇・八%減と二カ月連続減少へ。自動車販売の悪化を受けて前月に続いて悪化が見込まれている。もっとも、新設

住宅着工数は季節調整前月比一二・九%増の八万四、二五二戸、前年比は二五・二%増と前月に続き大幅増加しているのが下支えとなっている。

輸出に関しては、電気銅輸出が前月比二六・一%減の三万三、三〇九tと大幅減。銅スクラップは二八・九%増の三万五、八七二tとこちらは大幅増加した。

輸入は電気銅が三・五%増の三、〇九七t、スクラップは九・五%増の八、一四六t。銅需給に関しては、今月も引き続き自動車関連の需要が悪化、自動車販売台数も三・三%減と減少、生産台数でも一・四%減と急減している。まだまだ悪化の可能性がある。

ただ、住宅着工数のみが前月比(季節調整済み)一・二・九%増の八万四、二五二戸(昨年比二五・二%増)と大幅に増加しており、今後に期待される。

その他の家電業界も引き続き悪化しているが下げ止まりの兆候か、伸銅品生産に関しては一七カ月ぶりプラスの〇・五%増(前年比)。

銅需要に関しては欧州債務懸念の後退、中国の四九〇億元の鉄道インフラ投資、米不動産市況の回復など一時よりは明るい材料が多いものの、全てにおいて計画段階であり、まだまだ不確定要因が多いことから実需はなく、年内は買い気薄とみられる。

銅価格に関しては、「米財政の崖問題」が主なテーマであるが、問題が解決したとしても、すでに織り込み済みで、新規プラス材料は望めず、上値は直近高値の八、三〇〇ドルが限界であろう。

下値は現在八、〇〇〇ドル近辺を推移していることから、欧州のゴタゴタが加われば更なる下振れが考えられ七、七〇〇ドルも視野に入るのではないかと。

銅建値に関しては六七七・二万円程度と予測している。

◇KLT M ず相場 二一・七五〇 米ドル
五日 三七 トン

◇東工取(五日前引)

金 四、四七七円
銀 八六・三〇
白金 四、一八八
パラジウム 一、七八八